

事業名: サテライトオフィス誘致事業者等支援事業			
担当課:	商工課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	3,100
		うち交付金充当:	1,550
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	企業等に市内の空き家等をサテライトオフィスに活用することを促し、地域に新たなビジネス及び雇用を創出し、地域経済の活性化と地域雇用の促進を図る。
実施内容	空き家等を活用してサテライトオフィスを展開する事業者に補助金を交付する。
コスト削減等の工夫	予算に限りがあることから、希望者に事前ヒアリングを実施し、市や地域に良好な影響を与える可能性の高い事業者を交付対象者とした。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	多様な働き方推進事業費補助金(テレワーク)

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-1)南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致
基本的方向	ものづくりをはじめとした多様な「しごと」を創出するとともに、企業誘致を進める。
〈想定した事業・取り組み〉	●サテライトオフィス誘致に係る企業向け相談事業や空き物件活用

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	空き家等を活用し、2社がサテライトオフィスを開設した。 また、サテライトオフィスとして活用するため空き家を購入されたことにより空き家を流動化することができた。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	都市以外で働く選択肢としての「しごと」としてサテライトオフィスを開設した企業が新たに増え、基本目標1の目標達成に向けて前進した。
今後の方向性	新型コロナの影響でサテライトオフィスを計画する事業者が増加していることから、本事業を最大限に生かして積極的な誘致を図り、地域経済の活性化と地域雇用の促進を進める。

事業名: 商工振興助成事業(創業支援)			
担当課: 商工課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	892	うち交付金充当: 446
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	南丹市内の地域資源を活用し地域が稼ぐ仕事づくりを進めるため、南丹市内において起業を志す者を対象とした創業セミナーを開催し、定住の促進と地域経済の活性化を図る。
実施内容	創業セミナーの企画、運営及び広報活動
コスト削減等の工夫	SNSなどを活用し広域的に広報を行った。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	創業後の安定した経営に向けた支援策として、起業をした日から5年を経過しない起業者が、事業を周知するための展示会等への参加に要する費用に対して補助金の交付を行っている。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-1)南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致
基本的方向	ものづくりをはじめとした多様な「しごと」を創出するとともに、企業誘致を進める。
〈想定した事業・取り組み〉	●地域資源を活用した創業者に対する支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	創業セミナー開催(全日程4日間) 受講者15名(定員15名) 本セミナーの全日修了者には、「特定創業支援事業」を受けた者として証明書を発行した。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	「南丹市の特色を活かしたしごと」として起業を選んだ方々のスタートダッシュを支援したことで、基本目標1達成に向けたしごとづくり・ひとづくりができた。 更なるしごとづくりのため、事業を継続していく。
今後の方向性	今後も継続して創業支援セミナーを実施することで、さらなる起業者の増加を目指す。

事業名: 南丹市販路開拓支援事業			
担当課: 商工課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	1,422	うち交付金充当: 711
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	市内に立地する工業製品、食料加工品を製造する企業等が、市内において製造、制作、加工、開発された製品及びサービス等を国内外にて開催される展示会・見本市等への出展を後押しすることにより、新規取引先の獲得等、販路開拓を目指す。
実施内容	・南丹市内の事業所が市外において、取引の新規開拓、拡大のために展示会等へ参加するために必要な経費の一部を支援する。 ・起業から5年以内の事業者が展示会等へ参加するために必要な経費を支援する。
コスト削減等の工夫	申請内容をチェック表で精査し、対象外経費の算入がないかなどを確認した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	販路開拓緊急支援事業

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-1)南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致
基本的方向	ものづくりをはじめとした多様な「しごと」を創出するとともに、企業誘致を進める。
〈想定した事業・取組み〉	●事業者の販路開拓支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	コロナ禍で数少ない展示会の開催ではあったが、市外で開催された展示会・見本市等への出展に対し補助を行うことにより、新規取引先が獲得でき、販路開拓に繋がった。 支援件数 6件 商談件数145件 新規取引件数 6件
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	起業者の中でも基盤の弱いビギナーの自走を支援することで、南丹市で新たに生まれたしごとの定着・発展に寄与した。 当該事業を継続することで、基本目標1達成に向け、しごとづくりをしやすい環境を創っていく。
今後の方向性	新規起業者向けの販路開拓支援を引き続き行う。また、展示会などへ出展し商談相手を開拓する営業形態をもつ製造業等についてはひととおり本事業の活用は終了したため、次の展開として、さらなる大規模で世界的な展示会へ出展し、企業の成長を促す。

事業名: 間伐材出材奨励事業			
担当課: 農山村振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	4,870	うち交付金充当: 2,435
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	間伐材の輸送コストの削減により、安定的な供給体制を整備し、間伐及び木材自給率の向上を図るとともに、森林の荒廃を食い止め、森林の保全につなげる。
実施内容	間伐材の山土場から市場又は、間伐材加工施設までの輸送に係る経費について、実績に応じて1㎡当たり300円以内の補助をすることにより、コスト削減を図り間伐促進に寄与する。
コスト削減等の工夫	森林経営計画の策定
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	森林整備事業の搬出間伐と連携している。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-1)南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致
基本的方向	ものづくりをはじめとした多様な「しごと」を創出するとともに、企業誘致を進める。
〈想定した事業・取り組み〉	●間伐材を活用した林業振興

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	令和2年度については、16,234㎡の間伐材を搬出 (過去の実績) 令和元年度 22,275㎡、平成30年度 30,103㎡、平成29年度 20,079㎡、平成28年度 26,729㎡、平成27年度 21,700㎡、平成26年度 21,232㎡
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	事業実施が直接森林組合のしごとづくりに繋がるだけでなく、生産された間伐材を原料として製造業のしごとづくりにも間接的に繋がっており、総合的な林業振興に資する取組となっている。
今後の方向性	間伐材の輸送コストの削減により、安定的な供給体制を整備し、間伐促進及び木材自給率の向上に寄与する。

事業名:	特用林産振興事業		
担当課:	農山村振興課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	550 うち交付金充当: 275 (千円)

<1> 事業の概要

目的	朝倉山椒の生産量の減少により需要に対して供給が追いついていない状況である。栽培技術と品質向上により生産量の拡大を図り、地域特産物として定着させる。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 栽培技術の取得と品質向上に向け、先進地の視察及び栽培者との意見交換 試験地の選定を行い、試験地において、定植作業から収穫までの間の基幹作業 生産量の増産に向けて、生産地の選定
コスト削減等の工夫	委託事業であるため直接業務は行っていないが、仕様書どおりの業務が執行されているかや今後の事業の進め方等の関係機関と連携協議を行っており、業務に無駄が無いようにしている。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	京都府では「小さな経営革新チャレンジ支援事業」により、農業者が経営革新に向けて新たに実施する「農産物支援」「流通・販売」「6次産業」等の取組に対し、農業改良普及センターが伴走支援を通じて農業者の支援を実施している。当市においてもこれに並行して、新たな作付生産者の掘り起こしをし、栽培技術と品質向上により生産量の拡大を図り、地域特産物として定着させる。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-1)南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致
基本的方向	ものづくりをはじめとした多様な「しごと」を創出するとともに、企業誘致を進める。
<想定した事業・取組み>	●大嘗祭献上米(丹波産キヌヒカリ)や朝倉山椒など、特産品の付加価値を活かした生産振興

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<ul style="list-style-type: none"> 挿し木講習会 参加者14名 栽培講習会 参加者 26名 苗木配布 27名(100本) モデル園設置 園部町口司地内
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	園部落から歴代徳川将軍に献上していたというルーツがある品種であるため、地域に根付きやすく、今後の収穫・増産を経て新たなしごとになっていく可能性を十分に孕んでいる。また、実が柔らかく加工しやすいことから、加工産業や飲食業への販路も期待できる。
今後の方向性	朝倉山椒について、定植してから収穫まで2~3年程度要すること、生産者の栽培技術の向上、生産量の増産を図り、地域特産物の定着をさせるため、一定期間継続した取組が必要。

事業名:	小規模企業支援事業		
担当課:	商工課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	1,095 うち交付金充当: 547 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市商工会の会員である市内小規模企業者が経営安定のため資金融資を受けた場合の利子の補給及び京都信用保証協会の信用保証料の助成を行うことにより、市内小規模企業者の経営の安定に資する。
実施内容	対象資金の融資を受けた場合の利子の補給 京都信用保証協会の信用保証料の助成
コスト削減等の工夫	商工会及び市で申請の内容をダブルチェックし、補助金の額の適正化に努めた。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	-

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-2)地域産業の担い手となるひとづくりと市内就職・起業支援
基本的方向	都会で働く以外の選択肢を求める多様な価値観に応えられる就業支援や人材育成を行うことで、地域で働くひとを増やすとともに、事業者支援で地域産業の衰退を防ぐ。
〈想定した事業・取り組み〉	●小規模な事業者の経営安定化支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	市内38事業者に対し、利子補給金を交付した。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	中小事業者が大半を占める南丹市におけるしごと(働ける場)づくりにおいては必須の事業である。 小規模事業者の経営安定化・事業拡大を間接的に支援することにより、基本目標1の達成に好影響を与えていく。
今後の方向性	小規模事業者の経営安定と成長のための新たな設備投資を推進するため、引き続き制度を設置し、積極的な制度利用を呼びかける。

事業名: ものづくりのまち推進事業			
担当課: 地域振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	543	うち交付金充当: 271
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	「ものづくり」をテーマに、誰もが気軽にものづくりを体験できる事業や工芸を主とした展示会の開催。
実施内容	誰もが気軽にものづくりを体験できる事業や工芸を主とした展示会を開催したほか、ものづくりの推進をめざしたネットワークの構築を図った。
コスト削減等の工夫	南丹市工芸家協会に委託することにより、南丹市内外において南丹市のものづくり事業のPRなど工夫した取組を実施できた。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-2)地域産業の担い手となるひとづくりと市内就職・起業支援
基本的方向	都会で働く以外の選択肢を求める多様な価値観に応えられる就業支援や人材育成を行うことで、地域で働くひとを増やすとともに、事業者支援で地域産業の衰退を防ぐ。
〈想定した事業・取組み〉	●地域の伝統産業の後継者育成

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<p>南丹市の特長であるものづくりに関わる様々な取組を、市民とともに行うことにより、ものをつくる楽しさやものを大切にする暮らしについて考える機会を提供できた。</p> <p>○市内における展示会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工芸家協会展の開催 11/26～12/7(わざどころPON) 出展作家9名 ・ものづくり体験ワークショップ 11/28(気になる木「JUJU」) カッティングボードづくり・お茶碗作り ・その他展示会 通年(井筒八ッ橋本舗 新光悦) <p>○市外でのPR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南丹市工芸家協会展～味夢の里～ 11/21～11/23(道の駅 味夢の里) 出展作家9名
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	市内工芸家とその作品のPRに資する取組を包括的に協会委託することで、市の特徴的な地域産業であるものづくりの担い手を守り育て、誘引していく。
今後の方向性	ものづくりのまちとして、継続した取組を行う。

事業名: 空き家流動化対策事業			
担当課: 地域振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	2,363	うち交付金充当: 1,181 (千円)

<1> 事業の概要

目的	増加する移住希望者に対して空き家バンク登録物件が不足しており、移住希望者のニーズに十分対応できていない状況を改善するため、地縁のつながりを活かした地域団体との協働により、空き家を地域資源として掘り起こし、定住促進及び地域振興に活用する。
実施内容	①空き家掘り起こし事業 地域団体の働きかけによって空き家バンクに登録された場合、団体に報奨金(1物件3万円)を支給した。また、当該空き家が活用された場合も報奨金(1物件2万円)を追加で支給した。 ②空き家掃除お助け事業 空き家バンクに登録された空き家や新規活用が見込まれる空き家について、地域団体が家財道具の撤去などを行う際の廃棄物処分費(バケツ代)を補助(1物件上限20万円)した。 ③定住ガイドブック印刷製本業務 移住希望者・空き家所有者・地域団体・企業等が活用できる制度などを集約した冊子を発行した。
コスト削減等の工夫	①②については、申請様式や各種手続きを簡素にしたことにより、申請者の事務負担を軽減させるとともに、市の業務も効率化させた。 ③の作成は業者委託とせず、職員が直接行うことでコスト削減と更新のしやすさを両立させ、印刷製本のみ障がい者就労施設に発注することにより、施設利用者の工賃アップに貢献した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	集落支援員・地域おこし協力隊などを活用して、他の定住促進施策や地域振興施策とあわせて地域団体などに情報発信することにより、地域の実情に応じた事業展開や組み合わせを図っている。 また、活用されなければ倒壊の危険や景観を損なう恐れがある空き家を、定住促進や地域振興に活用することは、放置空き家対策と定住促進対策の双方に効果がある。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-1)定住・移住促進に向けた取り組みの推進
基本的方向	定住促進サポートセンターや地域おこし協力隊などを活用し、情報発信や相談事業、空き家バンク活用などの取り組みを推進するとともに、市内在住者に住み続けてもらえる取り組みを進める。
〈想定した事業・取り組み〉	●空き家バンク活用推進 等

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	①空き家掘り起こし事業:報奨金交付件数 登録9件・活用15件 地縁の強みを活かした地域団体の活動を支援したことにより、空き家バンク登録物件が増加し、空き家の有効活用につながった。また、地域団体の定住促進に関する機運が高まった。 ②空き家掃除お助け事業:補助金交付件数7件 空き家活用の支障となる家財道具の地域ぐるみでの撤去作業を支援したことにより、空き家の有効活用につながった。また、撤去作業を通じて、地域住民と移住者の絆が深まった。 ③定住ガイドブック印刷製本業務:発行部数1,000部 定住促進イベント・定住促進サポートセンターでの案内業務などに活用するとともに、各区長・京の田舎ぐらしナビゲーターなどに配布したことにより、若い世代の移住希望者・空き家所有者・地域団体・企業等に対して、メリットのある定住促進制度などの情報を発信できた。 ■主な支出内容:空き家掘り起こし事業報奨金・空き家掃除お助け事業補助金・定住ガイドブック印刷製本費
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	基本目標2の達成に直接影響する定住促進事業である。 令和2年度も着実に成果が出ており、目標達成に寄与している。
今後の方向性	空き家バンク登録物件のマッチング率は7割以上で、物件の選択肢を増やすことが移住者を増やす近道である。空き家を地域資源として掘り起こすには、集落にある空き家所有者との縁を活かした地域ぐるみの取組が有効であり、今後も地域団体と協働して本事業に取り組む。

事業名: 定住促進サポートセンター運営事業			
担当課:	地域振興課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	5,813
		うち交付金充当:	2,906
(千円)			

< 1 > 事業の概要

目的	移住に関する情報の集約・発信、移住者を地域につなぐための相談対応、受け入れる地域を支援する窓口として、定住促進サポートセンターを設置し、移住者の積極的な受け入れと定住促進を図るための拠点機能を発揮させる。
実施内容	移住希望者を地域や空き家所有者につなぎ、地域の新たな担い手として受け入れるため、定住促進サポートセンターを拠点として会計年度任用職員を2名常勤させ、移住希望者・空き家所有者・地域団体からの相談対応や、空き家バンク物件の紹介などを行った。
コスト削減等の工夫	移住・定住のワンストップ窓口としての機能を持ち、相談対応を効果的に行っている。 また、地域おこし協力隊・集落支援員と事務所を共用し、コスト削減と公共人材間の連携強化を両立させている。 平成30年8月には(公社)京都府宅地建物取引業協会、(公社)全日本不動産協会京都府本部と空き家バンクの運営に関する協定を締結し、専門家と協力して空き家の活用を推進している。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	京都府指定の移住促進特別区域内の地域団体とともに、移住者の受け入れを行っている。 空き家バンク登録物件を増加させるため、空き家流動化対策事業による空き家の掘り起こし活動を推進しており、地域と連携して定住促進を図っている。

< 2 > 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-1)定住・移住促進に向けた取り組みの推進
基本的方向	定住促進サポートセンターや地域おこし協力隊などを活用し、情報発信や相談事業、空き家バンク活用などの取り組みを推進するとともに、市内在住者に住み続けてもらえる取り組みを進める。
〈想定した事業・取り組み〉	●定住促進サポートセンター運営 等

< 3 > 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<ul style="list-style-type: none"> ・定住促進サポートセンターへの移住相談件数 718件 ・空き家バンク物件新規登録件数 50件 ・空き家バンク物件新規活用件数 54件 ・空き家バンク利用希望者新規登録人数 254人 ・空き家バンク物件残数(年度末現在) 69件 ・空き家バンク利用希望者残数(年度末現在) 515人 ・定住促進サイト「なんくら」の運営・更新 <p>京の田舎ぐらしナビゲーターなど地域の移住相談人材と連携・役割分担し、移住者受け入れ体制の整備や空き家情報などの発信を行ったことにより、定住促進に寄与することができた。</p> <p>■主な支出内容:会計年度任用職員人件費・事務所経費・公用車経費・ホームページ維持管理費</p>
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	基本目標2の達成に直接影響する定住促進事業である。 令和2年度も着実に成果が出ており、目標達成に寄与している。
今後の方向性	平成31年3月に市内郵便局と締結した地方創生に関する協定に基づき、平成31年4月からは地域の実情に精通した郵便局長が、地域住民とともに田舎ぐらしナビゲーターに就任し、地域の移住相談人材が増強された。 定住促進サイト「なんくら」を活用した積極的な情報発信を行うとともに、アフターコロナを見据えたオンライン相談体制を構築し、地域と連携した移住者受け入れ体制をさらに強化する。

事業名: 定住促進地域情報発信ツール整備事業			
担当課: 地域振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	808	うち交付金充当: 404
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	定住促進を目的として、地域団体の創意工夫を凝らした情報発信ツールの作成を支援することにより、地域の情報発信機能を強化し、地域の魅力を地域主体で発信できるようにする。
実施内容	地域団体が定住促進を目的に行う情報発信ツールの作成に対して、交付金を交付(1事業上限50万円)した。作成にあたっては、地域おこし協力隊・集落支援員・まちづくりデザインセンターなどの公共人材と連携することとしており、地域外在住者の視点やノウハウが盛り込まれる仕組みとしている。
コスト削減等の工夫	情報発信ツールを地域が保有することにより、個々の地域が主体的に情報発信を行うことができ、これらを集約することで、市としても定住促進に向けた多様な情報発信が可能となっている。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	地域おこし協力隊などの公共人材と連携することにより、地域外在住者の視点が地域に入り込み、慣習やルールの緩やかな見直し機運が出てくるなど、地域自らが今後の地域の在り方を考える契機にもなっている。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-1)定住・移住促進に向けた取り組みの推進
基本的方向	定住促進サポートセンターや地域おこし協力隊などを活用し、情報発信や相談事業、空き家バンク活用などの取り組みを推進するとともに、市内在住者に住み続けてもらえる取り組みを進める。
〈想定した事業・取り組み〉	●移住希望者への情報提供 等

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<p>①集落の教科書1件(東胡麻区) 集落の生活様態や習慣、地域資源など移住希望者が求める情報をまとめた冊子を作成</p> <p>②情報発信冊子1件(住みよいむらづくり協議会) 地域の文化遺産「四ツ谷八景」をPRし、地域の誇りとするための案内板と冊子を作成</p> <p>地域団体の創意工夫を凝らした取組を支援したことにより、地域の魅力を地域主体で発信できるツールが整備できた。</p> <p>■主な支出内容: 定住促進地域情報発信ツール整備事業交付金</p>
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	令和2年度も新たに2地域の情報発信機能が高まったことで、基本目標2の達成に寄与していく。
今後の方向性	<p>移住希望者の多くは南丹市のみを移住対象としているのではなく、求める条件をより満たすまちがあれば、そのまちが移住先として選ばれる。</p> <p>移住先として選ばれるには、住居や仕事・生活の利便性・自然や子育ての環境・地域の慣習など多様な情報を提供し、移住後に安心して暮らせるイメージを持ってもらうことが必要だが、本ツールの整備は現在のところ一部地域のみであるため、今後も継続して地域の主体的かつ特徴的な情報発信を支援する。</p>

事業名: 観光イベント振興事業			
担当課: 観光交流室			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	226	うち交付金充当: 112
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	南丹市の個性を生かした特徴的なイベント開催を支援することにより、市民の地域への誇りや一体感を高め、観光客の増加と地域の活性化につなげる。
実施内容	地域の特性を生かした観光イベントの主催団体に対して支援する。
コスト削減等の工夫	実行委員会の取組状況を把握し、必要最低限の補助に留めた。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	観光協会事業、観光宣伝事業

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
<想定した事業・取組み>	●対外的にアピールできる景観の発見とPR

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	コロナの影響により、イベントは中止になっているが、年度当初については状況が予測できなかったことにより、本年は実行委員会でイベント広報等開催に向けて実施済みであった経費について、支援することとした。 ■主な支出内容: 大野ダムイベント実行委員会補助金
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	大野ダムのさくら祭り・もみじ祭りは対外的にアピールできる南丹市の風物詩であるため、更なるファン獲得に向けて実行委員会を支援していく。
今後の方向性	対象イベントについては市の観光振興には不可欠な観光資源であると認識しているので、今後とも支援することとし、一方で経費削減に努めていただくよう働きかける。

事業名: 観光宣伝事業(その他宣伝事業)			
担当課: 観光交流室			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	1,991	うち交付金充当: 995 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市の観光によるまちづくりを推進するため、国内外に観光資源のプロモーションを行うことにより、南丹市の知名度と観光ブランドの向上を図る。 また、観光パンフレットやホームページによる観光情報の充実を図り、外国人を含む多くの観光客を誘致する取り組みを進める。
実施内容	国内外への南丹市の観光プロモーション 本年はコロナ禍により計画通りのプロモーションは実施できなかったものの、可能な範囲内で観光情報の発信、プロモーション活動の実施、観光展等への参加を行った。 ・「なんたん戦国巡り」作成 ・「南丹市フォトコンテスト」開催 ・「道の駅旅案内」広告掲載 ・南丹市観光ポスター作成
コスト削減等の工夫	業者委託する範囲を極力抑えることで、コスト削減に努めた。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	森の京都DMO、観光協会事業、美山観光まちづくり協会事業

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●海外向け観光プロモーション事業

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<ul style="list-style-type: none"> ・山城ブームや軽登山ブームに着目し、大河ドラマ(麒麟がくる)関連の山城を紹介した『なんたん戦国巡り』と題したガイドブックを作成。コロナ禍においても比較的密を避けて訪れていただける観光スポットであり、地域住民や商工会とも連携し、特に八木城の来訪者が増加した。 ・第3回南丹市フォトコンテスト実施した。応募数:261 ・近畿道の駅旅案内は毎年2回発行されるところがコロナ禍で1回となったが、市内3道の駅をPRした。 ・第3回フォトコンテスト入選作品を活用した南丹市観光ポスターを作成。 <p>■主な支出内容: 広告料、業務委託料(ガイドブック作成、フォトコンテスト、ポスター作成)</p>
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	コロナ禍を受けて国内をメインターゲットにプロモーションすることで、新たなファン獲得に寄与した。 密かなブームとなりつつある「八木城」を新たなキラーコンテンツとして、基本目標2達成に繋げていく。
今後の方向性	入込客数の増加と観光客一人当たりの消費額を上げるために、引き続きプロモーション活動を行う。合わせてコロナ収束後の旅先として選んでもらえる体制作りと情報発信に努める。

事業名: 観光宣伝事業(美山DMO補助)			
担当課: 観光交流室			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	12,000	うち交付金充当: 6,000 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市や市内観光協会、森の京都DMOなどと連携しながら、美山地域を中心に観光を軸としたまちづくりを推進する、一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会(美山DMO)への補助を行った。
実施内容	美山地域を中心とした観光プロモーション活動を実施。着地型ツアーの造成販売や観光案内、宿泊手配、教育旅行の受入れやメディア対応マーケティング、人材育成など幅広く展開。
コスト削減等の工夫	コロナ禍により大幅に観光客が減少する中、繁忙期の土日にかやぶきの里北集落に観光案内所を開設し、かやぶきの里から一足伸ばしの観光の提案や、当日参加可能なミニツアーの案内を行い、観光消費単価向上の工夫が行われた。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	・観光協会事業 ・森の京都推進事業 南丹市内観光協会や、森の京都DMOとの連携による観光推進事業が行われた。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
<想定した事業・取組み>	●森の京都DMO・京都府観光連盟・関西観光本部・美山DMO などとの連携

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	地域事業者との商品造成会議 / 観光客受け入れのための各種セミナー / 旅行会社を対象にしたモニターツアー / Gotoトラベル手配業務 / 当日参加可能ガイド付きミニツアー / 農山村教育民泊受入家庭との意見交換会 / 旅行会社と連携したオンラインツアー実施 / 美山町内久保地区、島地区セルフガイドマップ作成 / エコツアー造成 / コロナリカバリー動画作成 / 新しい客層への情報発信とアプローチ、商談会の実施 / 魅力ある商品造成による新たな需要の喚起 / 体験とりまとめサイトでの体験、滞在コンテンツの販売と露出度の向上 / 第5回エコツーリズム大会の実施 / 美山町観光ビジョン2021策定 / 観光統計の収集と分析 / 毎月の美山町宿泊数調査の実施 / 美山町内市場調査の窓口一元化 / かやぶきの里・道の駅美山ふれあい広場、美山町自然文化村に人数カウンターの設置 / 会員窓口支援事業 / 新型コロナウイルス感染症に関わる対応 / 視察・取材の窓口一元化 / 視察メニューの充実と可視化 / 小型モビリティ事業の実施 / 財務、労務に関する業務 / 関連組織との連携 / 観光案内資料の発送 / 観光窓口の設置 / 観光PR資料の作成 / 南丹市フォトコンテストへの協力 / 美山フォトストックの充実化 / 美山ナビ、SNSの定期更新 / 観光関連事業者へむけた定期的な情報発信 / 出版物の校正
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	美山町エリアの特徴や強みを活かした観光振興を通じて、南丹市への観光誘客に寄与する。令和2年度からはコロナ禍を踏まえて国内誘客に重点を移しながら、南丹市への新しい人の流れをつくっていく。
今後の方向性	コロナ禍により、大幅に観光入込客数が減少しているため、可能入込客数の増加と観光客消費単価を上げるために、美山DMOへの補助を行い、プロモーション活動を継続する。

事業名: 観光協会事業			
担当課: 観光交流室			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	4,521	うち交付金充当: 2,260 (千円)

< 1 > 事業の概要

目的	観光地としての南丹市のレベルアップと知名度の向上を図るため、市内の観光協会の運営及び事業実施を支援する。
実施内容	るり溪観光協会・八木町観光協会・日吉町観光協会、(一社)園部文化観光協会に補助金を交付
コスト削減等の工夫	各団体の会費収入や事業収入の増加に努めていただくよう働きかける。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	・観光宣伝事業、美山まちづくり協会事業、森の京都推進事業

< 2 > 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●観光協会への運営補助

< 3 > 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<p>るり溪観光協会・・・るり溪の清掃・管理及び観光宣伝。 八木町観光協会・・・八木地域の活性化と観光振興。ホームページによる積極的な情報発信。特に八木城跡の観光PRに努め、JRハイキングや八木城フェスタ、内藤ジョアンマンガ本を作成。 日吉町観光協会・・・日吉地域の活性化と観光振興。日吉駅での観光案内、ホームページなどでの情報発信。 園部文化観光協会・・・サイクルツーリズムモニターツアーやサイクリング周遊コースの開発などサイクルツーリズム事業を推進。ホームページの作成。 ■主な支出内容 観光協会運営補助金</p>
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	<p>広大な南丹市において、各エリアごとの特徴や強みを活かした観光振興を通じて、南丹市への観光誘客に寄与する。 特に令和2年からは園部地域に観光協会ができたことで、園部地域のファン獲得に向けてより一層推進する。</p>
今後の方向性	<p>南丹市観光協会連絡会を設立し、市内の観光協会及びDMOの横連携を深め、南丹市の観光振興事業の一体化を目指す。</p>

事業名: 都市と農村との交流事業			
担当課: 観光交流室			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	2,970	うち交付金充当: 1,000 (千円)

<1> 事業の概要

目的	エコツーリズムのまち美山地域の豊かな自然や景観、文化の保護やPRにつとめるとともに、それらを活用し地域の活性化を目指す団体や、関係4市町で組織する西の鯖街道の活動を支援する。
実施内容	エコツーリズムのまち美山町のPRに努めるとともに、全体構想の実現に向けて、豊かな自然や景観、多様な動植物、歴史や伝統文化を活用したエコツアーを開発し、地域の自然環境の保護と利用の両立を図りながら、地域の活性化を目指す団体の活動を支援する。
コスト削減等の工夫	-
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	・観光宣伝事業 本事業により磨き上げられた都市と農村との交流事業については、新たな南丹市内の魅力として、年々多様化する観光客のニーズに対応すべく、観光宣伝事業においてもPRされている。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取り組み〉	●農業体験ツーリズムや農家民宿の推進

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	■主な経費:エコツーリズム推進業務委託料 (一社)南丹市美山観光まちづくり協会に委託し、地域資源を生かした情報発信等を行い、エコツーリズムの普及推進がされた。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	コロナ禍の時流に合った観光誘客としてエコツーリズム推進に取り組むことにより、南丹市への新しい人の流れを創出していく。
今後の方向性	新型コロナウイルス感染症の影響により、電車やバスを避け、マイカーで行ける近場の郊外の観光地を選ぶ傾向が強まってきている。今後についても事業を継続し、都市と農村との交流事業を推進する。

事業名: 観光文化資源活用推進事業			
担当課: 観光交流室			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	1,646	うち交付金充当: 823 (千円)

<1> 事業の概要

目的	森の恵みや歴史・文化遺産、生活文化の価値を体感できるコンテンツづくりと、それぞれのテーマごとに制作する記録映像のデジタル化を進めるとともに、南丹市内の文化遺産等の情報の見える化に取り組み、前年度独自に構築したデジタルアーカイブシステム『森の京都「なんたん」デジタルミュージアム』を充実させるため、情報収集と蓄積を行う実行委員会に対して、補助金交付による事業支援を行う。
実施内容	文化資源活用事業補助金として、森の京都「なんたん」エコミュージアム実行委員会に補助金を支出する。
コスト削減等の工夫	-
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	・観光協会事業 地域の歴史、文化遺産については、多くの人が興味を持つコンテンツであり、記録映像のデジタル化や、情報の収集と蓄積により新たな観光資源の発掘につながる。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●対外的にアピールできる景観の発見とPR

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	森の京都「なんたん」エコミュージアム実行委員会に補助を行い、南丹市内にある文化遺産などを、それぞれのテーマごとに歴史や暮らしの記録映像を製作するとともに、オンライン資料データ(画像・映像・資料)の追加や、府内教育機関への歴史教材DVD配布等を行った。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	南丹市の歴史文化データベースを構築している団体に対する補助を通じて、WEBを中心に歴史ファン獲得に繋げていく。 令和2年度は大河ブームに乗り、特に明智光秀関連のコンテンツを充実させたことにより、歴史ファンへの訴求力を高められたと考える。
今後の方向性	令和元年度から令和5年度が事業期間になっているため、内容を精査した上で事業支援を継続する。

事業名: 総合振興計画進行管理事業			
担当課: 企画財政課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	343	うち交付金充当: 171
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	① 総合振興計画の進捗状況の管理という内部管理業務に外部人材(大学生)を参画させし、新しい視点での分析・改善を目指す。 ② 南丹市をよりよく知ってもらうことで関係人口化するとともに、口コミによるシティプロモーションにも寄与させる。
実施内容	計画進捗管理のためのアンケート調査(市民意識調査)、学生の視線から見た南丹市の魅力の発見、整理(総合振興計画基礎調査等)
コスト削減等の工夫	学生の新しい視点により、アンケート調査表のコンパクト化、市民が回答しやすい設問・レイアウト等の変更を行った。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	京都府立大学との包括連携協定

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取り組み〉	●シティプロモーション事業

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	① 18歳以上の市民から無作為抽出した市民2500人にアンケート発送し、978人(39.1%)から回答いただけた。 ② 雇用を通じて南丹市と接点がなかった若者を関係人口化することができた。 ■主な支出内容: 会計年度任用職員人件費
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	南丹市に接点のなかった若者を関係人口化することができたため、その家族、交友関係を中心に南丹市の発信が期待され、ファン獲得の足掛かりになった。
今後の方向性	令和3年度よりアンケートをオンライン併用型にブラッシュアップするため、新たな学生の新たな視点で回答率向上を目指したい。 併せて、副次的効果である関係人口創出についても、観光や移住定住に繋がる強固なファンの獲得に繋げる方法を模索する。

事業名: スポーツ拠点づくり推進事業			
担当課: 市民協働室			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	400	うち交付金充当: 200 (千円)

<1> 事業の概要

目的	3種の競技を組み合わせた健康に良いとされるトライアスロンは、現在日本での競技人口は40万人を超えるスポーツであり、南丹市の広大な自然の中でコースの設定を行い、豊かな自然を満喫しながら楽しめるスポーツとして、また観光振興として浸透する事業の一つとして定着を目指す。
実施内容	HPを立ち上げ、エントリーを開始したのち、新型コロナウイルス感染症により中止決定を行った。については、不測の事態による開催中止であることから、エントリー費については全額返金(振込手数料は差し引き) HP・交通警備作成費用・返金システム登録料等、開催中止決定に至るまでの経費を補助金として交付したものである。
コスト削減等の工夫	中止に際し、必要最低限の金額を京都府との折半で負担した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	特になし

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
<想定した事業・取り組み>	●自転車競技・トライアスロンなど地域の観光・スポーツイベントの振興やイベント開催

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	■主な経費:大会実行委員会補助金(うち4割程度は交通マニュアル作成に係る事前調査並びに作成費) 新型コロナウイルス感染症により、開催中止となったが、今後の開催に向けた交通マニュアルが作成できた。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	コロナ禍や観光収入に繋げるための課題はあるが、有名芸能人が継続的にエントリーする等、国内外にアピールできる大規模なスポーツイベントであるため、南丹市への新しい人の流れをつくるために工夫しながら取り組んでいく。
今後の方向性	関係団体と競技団体にそれぞれのセッションにおける責任を課し、実行委員会の体制強化を図る。市としては、5回開催の実績を加味し、継続事業として確立できるようにサポートする。

事業名:	山村留学事業		
担当課:	社会教育課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	13,774 うち交付金充当: 6,886 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市美山山村留学センター「四季の里」を拠点として、都市の児童を対象とした山村留学を実施することで、自然環境の知識を深めるとともに、都市児童と保護者、山村児童と住民との交流を図る。
実施内容	1年間、親元を離れ山村留学を実施。
コスト削減等の工夫	-
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	里親の地元家庭に宿泊(1泊)するほか、地元行事への積極的な参加等による交流

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取り組み〉	●農業体験ツーリズムや農家民宿の推進

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	令和2年度は下記5名の児童入所により本事業が展開できた。 人数:5人(男子1人、女子4人) 学年別:3年生1人、4年生1人、5年生3人 出身地:大阪市北区、大阪府守口市、大阪府枚方市、和歌山県紀の川市、愛知県豊川市 里親:5世帯(知井地内)
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	コロナ禍においても5名の児童が参加し、新たな関係人口創出に繋がった。 非常に濃厚かつ世代を超えた関係人口を生み出す事業であるため、基本目標2の目標達成に寄与すると見込んでいる。
今後の方向性	事業実施25周年を目途に、今後の事業について地元と検討協議予定。

事業名: 商工振興助成事業(商工会イベント補助)			
担当課: 商工課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	7,350	うち交付金充当: 3,675 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市商工会が主催する商工・観光イベントに対し支援を行うことにより、南丹市の商工業並びに観光の振興を図り、地域経済の活性化につなげる。
実施内容	市民の地域への誇りや一体感を高め、観光客の集客による地域の活性化につなげるため、南丹市商工会が主催する商工・観光イベントに対し支援を行う。
コスト削減等の工夫	実行委員会に対し、花火大会の開催の有無を早期に判断するよう促し、キャンセル料を最小限に留めるよう指導した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
<想定した事業・取組み>	●自転車競技・トライアスロンなど地域の観光・スポーツイベントの振興やイベント開催

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	第74回京都南丹市花火大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、先祖供養と復興の願いを込めて始まった本花火大会を継承していくため、京都南丹市慰霊、コロナ終息祈願の花火が実施された。 園部城祭りは、当初の予定から時期を変更したものの、コロナ対策を講じて実施された。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	南丹市の固定ファン獲得のための目玉事業として継続している。 コロナ禍の影響が大きい事業でもあるが、実施手法を工夫しながら実施することで、現在のファンを引き止めながら新たなファンの獲得に寄与していく。
今後の方向性	今後も地域と協力、連携した事業を実施することにより、地域の活性化へとつなげていく。

事業名: 歴史遺産振興事業(大河関係)			
担当課: 社会教育課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	4,255	うち交付金充当: 2,127 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市の魅力を市内外に発信するため、NHK大河ドラマ「麒麟が来る」を意識しながら南丹市に関連する事業を展開する。
実施内容	事業の中心となる文化博物館では、光秀と関係の深い内藤氏に着目し、特別展「八木城と内藤氏～戦国争乱の丹波～」を開催した。展示内容に対応した図録の発刊のほか、会期中には八木城跡の見学会や、展示解説会なども実施した。
コスト削減等の工夫	実行委員会が実施する講演会などの事業と連携し、講師謝礼等の経費を削減した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	NHK大河ドラマの影響で、光秀にゆかりのある地域を含めて全国で明智ブームとなった。丹波地域の自治体も関連事業を実施していたため、資料貸借とう相互連携ができた。また、森の京都「なんたん」エコミュージアム実行委員会と連携した講座等の事業も展開した。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

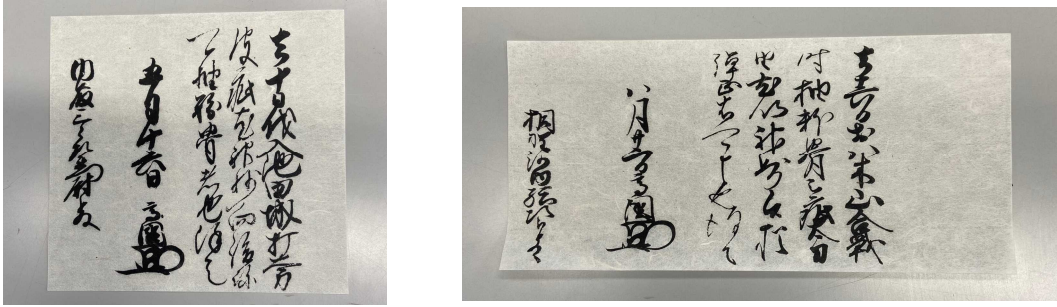
基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●文化財や歴史的な景観の保存と活用

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	文化博物館秋季展: 八木城と内藤氏～戦国争乱の丹波～(10月24日～12月6日) 展示解説会: 11月22日/12月5日 野外見学会: 八木城ハイキング・11月14日
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	大河ブームに乗り、明智光秀関連のコンテンツを充実させたことにより、歴史ファンへの訴求力を高め、ファン獲得に繋がったと考えている。
今後の方向性	展示会は終了したものの、八木城については、南丹市の歴史にとって欠くことのできない要素である。引き続き、常設展やスポット展で周知を図りたい。

事業名: 展示会事業(大河関係)			
担当課: 社会教育課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	399	うち交付金充当: 199 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市関連文化財の観覧する機会を提供するため、複製品を製作する。
実施内容	八木城が文献資料上初めて登場する「細川高国感状」等の複製品製作を専門業者に委託した。 
コスト削減等の工夫	遠隔地や個人所蔵など借用が難しい歴史資料の複製品を製作することにより、コスト等削減のほか、貴重な資料の劣化を防ぐことができる。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	複製品製作にあたり、指定文化財等については京都府より助言を得た。また、文化財の所有者からは、資料提供の協力をいただいた。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
<想定した事業・取組み>	●文化財や歴史的な景観の保存と活用

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	展示・貸出用の複製品を製作し、南丹市の大河関係所蔵が充実した。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	令和2年度は大河ブームに乗り、特に明智光秀関連のコンテンツを充実させたことにより、歴史ファンへの訴求力を高められたと考える。今後も歴史ツーリズム等の観光企画と連動させながら、「八木城」を国内外にアピールし、新しい人の流れを創っていく。
今後の方向性	複製品製作はコスト削減や原資料の保存にも貢献しつつ、実物により近い状態で資料を観覧でき、展示資料の充実や来館者増にもつながるだけでなく、原本所有者の許諾があれば貸出してPRにも活用できるため、今後も製作を進める。

事業名: 展示会事業			
担当課:	社会教育課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	4,379
		うち交付金充当:	2,189
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	南丹市の魅力を市内外に広く周知するため、市に関連するテーマを設定し展示会等の事業を実施する。
実施内容	文化博物館・郷土資料館において季節毎に展示会を実施
コスト削減等の工夫	印刷物のデザインについては、館内で実施し製作費を削減した。また、資料の輸送についても次の事業で展示する資料を同時に借用し輸送費の削減を行った。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	市文化財保護審議委員や市民からの情報提供をもとに展示資料を収集することができた。内容に応じて市立図書館等で関係する書籍等と展示した。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●文化財や歴史的な景観の保存と活用

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	文化博物館、夏季展:ランプ・夜を彩る文明の華(8月15日~9月27日)、冬季展:旧八木小学校所蔵文書調査速報展/南丹市の祭り行事(2月20日~3月21日) 郷土資料館、夏季展:広報写真で見るひよしの50年史(8月15日~9月27日)、秋季展:戦後75年—いま伝えたいこと—(10月31日~12月20日)、冬季展:日吉ダムのあゆみ—川とともに暮らした人びと—(1月9日~3月21日)
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	南丹市の歴史や民俗文化を発信することにより、展示会そのものへの集客に加え、波及効果として、新しいファン獲得を期待して取り組んでいく。
今後の方向性	展示会活動は、南丹市の歴史文化や魅力を伝える重要な手段であり、実施テーマにもよるが市内外から多くの人を集客することができる。歴史文化の振興を含め、今後も引き続き実施する。

事業名: 山陰本線南丹市広告宣伝事業			
担当課: 地域振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	5,269	うち交付金充当: 2,634 (千円)

<1> 事業の概要

目的	JR園部駅以北の複線化を実現するため、JR山陰本線の利用者増加に向けた取り組みが必要なことから、JRの広告媒体を活用して全国に向けて南丹市をPRすることでJRの利用促進を図る。
実施内容	JRの駅構内でのサインージ広告や車両内におけるポスターの掲出
コスト削減等の工夫	業務実施の中で、なるべく安価でより効果の高い広告メニューが掲載可能となるよう委託業者と協議している。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	広告に使用する写真やデザイン等について、観光部局と連携し取り組みを進めている。 また、南丹市のPR、魅力を発信することでふるさと納税の周知を図り、市の財源確保を目指す。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●鉄道駅・車内への広告掲載・掲出

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏のJR車両内窓上ポスターの掲出(10月1日～10月31日) ポスター4,500枚を京浜東北線、埼京線、中央線快速、根岸線の車内に掲出 ・京都駅橋上マルチビジョン(10月～2月) 西口改札内正面のマルチ画面(60インチ×4面×2か所)において、PR画像を掲出
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	新たに首都圏にも広告掲出する等、積極的にPRや誘客に取り組んでいることから、南丹市の関係人口創出に期待できる事業である。
今後の方向性	サインージ広告などは、写真や映像で見ると興味を持ってもらいやすくPR効果の高い広告媒体であるため、今後も活用していく。

事業名: シティプロモーション推進事業			
担当課: 秘書広報課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	2,526	うち交付金充当: 1,262 (千円)

<1> 事業の概要

目的	市内の住民が南丹市の持つ価値を改めて認識すること、そして市外の人々が南丹市の価値を知り評価することにより、南丹市のイメージや認知度、知名度を向上させ、交流人口の増加ひいては定住人口の増加につなげることを目指します。
実施内容	映像制作、イオンシネマ広告、ラジオスポットCM、ポスター制作、インターネット広告
コスト削減等の工夫	南丹市情報センターによる映像制作やポスターのデザインと印刷の分離によりコストを削減した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	・観光宣伝事業(観光交流室) ・定住促進事業(地域振興課)

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取り組み〉	●シティプロモーション事業

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	動画制作(30秒) イオンシネマ京都桂川(2021/1/1~2021/3/31) 99,500人動員 5,325回上映 ブランジスタ広告(インターネット)20,876回ページビュー ポスター配布「緊急移住宣言」A1サイズ50枚、A4サイズ500枚
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	南丹市をPRする代表的事業であり、ファン獲得に繋がるイメージ形成のために様々な媒体活用を試行している。 今年度は特に「緊急移住宣言」ポスターが新聞にも取り上げられ話題となる等、南丹市への新しい人の流れをつくる布石を打てた。
今後の方向性	イオンシネマ等の広告媒体を活用するほか、YoutubeなどのSNSによるPRを展開する。

事業名: 地方創生拠点整備事業			
担当課: 社会教育課			
交付金名: 地方創生拠点整備交付金	対象事業費:	151,072	うち交付金充当: 74,453 (千円)

<1> 事業の概要

目的	地域のコミュニティ活動の活性化、生涯学習・文化・芸術の進行、人材育成、世代間や市民と企業の交流を目的とした拠点施設の整備
実施内容	南丹市園部文化会館の大ホール棟の周辺に廊下等を増設 同施設用の駐車場を追加整備
コスト削減等の工夫	契約相手を当該施設の耐震補強・大規模改修工事の請負業者と同一にして諸経費の削減を図った。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	民間企業・地域団体・近隣自治体と協働で各種文化事業の実施

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●観光交流施設の整備

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	大ホール棟周辺に廊下棟の増築(191.72㎡) 屋根付き駐輪場の整備(18.2㎡) 既存駐車場(50台)に加えて、周辺に第二駐車場(10台)、第三駐車場(25台)を整備
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	ホールの劇場機能を向上させる施工と、駐車場・駐輪場整備を実施したことで、質・キャパシティ的に集客に耐えうるものとなった。 今後は大規模な公演企画等を通じて、府内・近距離をターゲットに新しい人の流れを創っていく。
今後の方向性	京都府中部地域唯一の400席規模の劇場施設であることから、広域的なニーズが高い。条例改正により公民館から文化会館に名称変更し、社会教育法の制約を受けない施設として、生涯学習だけでなく、文化・芸術活動の広域的な拠点とすることで、広範囲からの来館者により、結果として地域経済の活性化にもつなげていく。

事業名:	地方創生拠点整備事業		
担当課:	社会教育課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	30,293
		うち交付金充当:	15,146
			(千円)

<1> 事業の概要

目的	地域のコミュニティ活動の活性化、生涯学習・文化・芸術の進行、人材育成、世代間や市民と企業の交流を目的とした拠点施設の機能向上
実施内容	南丹市園部文化会館の耐震補強・大規模改修工事に併せて、同館大ホールにて供する備品類の購入
コスト削減等の工夫	可能な限り一括発注を行い経費削減を図った
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	民間企業・地域団体・近隣自治体と協働で各種文化事業の実施

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●観光交流施設の整備

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	南丹市園部文化会館大ホールで供する備品類を購入 音響照明機材一式、舞台用品(追加ステージ、音響反射板、平台、箱馬、金屏風、机、椅子、移動式鏡)
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	ハード整備の集客効果を促進するための備品整備であるため、公演企画等に活かし、府内・近距離をターゲットに新しい人の流れを創っていく。
今後の方向性	プロのアーティストを招聘する企画にも対応可能な機材を購入し、生涯学習だけでなく、文化・芸術活動の広域的な拠点とすることで、広範囲からの来館者により、地域文化の発展や地域経済の活性にもつなげていく。

事業名: 特別支援教育推進事業			
担当課:	学校教育課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	27,307
		うち交付金充当:	13,280
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	基本的な方向性としては、障がいのある子どもと障がいのない子どもができるだけ同じ場でともに学ぶことを目指し、それぞれの子どもが授業の内容がわかり、学習活動に参加している実感・達成感をもちながら、充実した時間を過ごしつつ確かな力を身に付けるための支援の充実を図る。
実施内容	児童生徒一人ひとりの学力の定着と、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、きめ細かで個に応じた指導や支援を行う。
コスト削減等の工夫	支援を必要とする児童生徒に対して、きめ細やかに個に応じた指導や支援が行えるよう、学校管理運営規則に定められた休業日を除く日を勤務日として配置している。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	京都府にも同様の事業があり、それを補充する形で本事業を実施している。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
基本的方向	年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせる共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、災害に備えた体制の強化やインフラ整備、公共交通の充実を通じて誰もが安心して暮らせるまちをつくる。
〈想定した事業・取組み〉	●特別支援教育の推進

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	支援を必要とする児童生徒の個に応じた指導や学習支援などをより丁寧に行うことにより、障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた特別支援教育を実施することができ、保護者や地域の人々の願いにも応えることができた。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	学習支援を必要とする児童生徒とその保護者にとって安心して暮らせる共生社会づくりに寄与する。
今後の方向性	共生社会の形成に向けて、同じ場でともに学ぶことを基本とし、支援を必要とする児童生徒の個々の実態に応じた支援を継続していく。

事業名: 障害者団体活動支援事業			
担当課: 社会福祉課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	1,228	うち交付金充当: 614 (千円)

<1> 事業の概要

目的	団体の活動を支援することにより、団体の運営の安定を図るとともに、障がいのある方に対する社会の理解と認識を深め、自立と社会参加を促進していく。
実施内容	障がいのある方の社会参加の促進や自立した生活の支援を目的に活動する当事者団体等に対して、団体の目標達成に向けた活動を支援するための補助金を交付する。
コスト削減等の工夫	—
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	障害者就労支援ネットワーク運営事業

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
基本的方向	年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせる共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、災害に備えた体制の強化やインフラ整備、公共交通の充実を通じて誰もが安心して暮らせるまちをつくる。
〈想定した事業・取組み〉	●障がい者団体への助成

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	市内に拠点を置く当事者団体(7団体)へ補助金を交付 ・心身障害児者父母の会 ・身体障害者相談員協議会 ・身体障害者福祉会 ・精神保健福祉推進家族会 ・難聴者の会 ・視覚障害者協会 ・聴覚障害者協会
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	自走の難しい各障害者団体への補助を通じて活動を活性化することで、「支え合って安心・安全に暮らせる共生社会」づくりに寄与する。
今後の方向性	各団体では、会員の減少・高齢化等により活動を維持していくことが困難な状況が見受けられるため、団体活動の強化に向けた支援により、障害者福祉の増進を図る。

事業名: 障害者就労支援ネットワーク運営事業			
担当課: 社会福祉課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	2,649	うち交付金充当: 1,324 (千円)

<1> 事業の概要

目的	市内障害者就労事業所のネットワークを構築し、受発注情報の収集・提供等を行うことにより、障害者就労支援事業所の経営基盤を強化し、障がい者の就労の場を確保する。
実施内容	市内障害者就労支援事業所の中から、業務遂行能力を持った団体を事務局として選定し、就労支援ネットワーク会議の運営、物品等パンフレットの作成及び更新、PR活動・ニーズ調査の実施、一次共同受注窓口の運営を行う。
コスト削減等の工夫	事業所間の連携活動により、営業面の効率化や市場ニーズの共有が可能となった。また、共同受発注窓口の開設により単一事業所では対応できない大口受注にも対応できるようになった。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
基本的方向	年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせる共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、災害に備えた体制の強化やインフラ整備、公共交通の充実を通じて誰もが安心して暮らせるまちをつくる。
〈想定した事業・取組み〉	●障がい者団体への助成

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	就労支援分野において、全事業所が課題を共有しながら、専門的かつ多面的に協議ができた。事業所間の連携活動により、営業面の効率化や市場ニーズの共有により販路拡大や商品開発に活かせる場を設けられた。 参加事業所数(9事業所) ・会議開催回数 2回 ・商品・作業パンフレットの更新 ・商品・作業単価一覧更新 ・商品・作業を仲介する共同受注窓口の運営
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	標記ネットワークの支援を通じて、障がい者の方々の収入向上に繋げることにより、「支え合って安心・安全に暮らせる共生社会」づくりに寄与する。
今後の方向性	ネットワーク会議を核として、障害者就労支援事業所の商品開発や販路拡大等に向けた取り組みを展開していく。 障がいのある方が安心して働ける場所の確保及び工賃アップを図っていく。

事業名: 美山暮らし情報配信システム整備事業			
担当課: 地域振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	660	うち交付金充当: 330 (千円)

<1> 事業の概要

目的	高齢者をはじめ住民生活の向上を図るため、高齢者の見守りや買い物サービス、災害時の緊急連絡など、スマートフォンを使って暮らし全体を支援するシステムを美山町全体で運用し、住民がつながるネットワークづくりと誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進する。
実施内容	「美山暮らしのアプリ」に係るシステムの保守・運営を委託した。
コスト削減等の工夫	システム開発した事業者へ保守等を委託することにより、不具合等の迅速な対応が可能となった。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	美山町各振興会、美山まちづくり委員会など美山地域の各種団体による美山の暮らし情報の配信。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
基本的方向	年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせる共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、災害に備えた体制の強化やインフラ整備、公共交通の充実を通じて誰もが安心して暮らせるまちをつくる。
〈想定した事業・取組み〉	●地域活動の活性化支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	美山暮らし情報配信システムの保守及び運用管理を委託し、美山暮らしのアプリ運営委員会と連携して、アプリの機能改善やシステムの不具合等に早急な対応ができた。 ・登録者数 569件 ・お知らせ等配信件数 107件
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	市内でも特に高齢化率の高い美山町において、「安心・安全な地域づくり」に資する取組として実施するもの。 町内の各団体によって情報発信されていることから、「共生社会の仕組み」のひとつとも言える。
今後の方向性	美山の暮らし情報を継続的に配信するため、システムの保守及び運用を事業者へ委託する。また、アプリの機能改善等について、提案を行う。

事業名: 発達支援センター管理運営費			
担当課: 社会福祉課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	194	うち交付金充当: 97

(千円)

<1> 事業の概要

目的	重度自閉症等の障害児への療育を目的とした児童発達支援事業であり、職員配置は有資格者を配置し、個別対応の支援を実施する。 *国サービスの児童発達支援の報酬による収入だけでは人件費等の経費が上回る。そのため花ノ木医療福祉センターが重度自閉症の障害児への児童発達支援の実施を維持するために、補助する目的で南丹市の児童の利用日数分を支払っている(令和元年10月からの新規事業)
実施内容	花ノ木医療福祉センターの有資格者が構造化1対1指導で”TEACCHプログラム”を実施。2名の園児が毎週1回1時間の療育に通っている。(管内:亀岡市2名南丹市2名京丹波町1名限定枠)
コスト削減等の工夫	発達支援センターの保健師がコーディネート、保護者と在園先、医療機関と連携して円滑に実施している。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	児童発達支援”つくし園”においても本事業で得た力を生かしながら、療育で成長発達を支援している。支援学校就学のケースにおいては、花ノ木から直接有資格者が直連携を行っている。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
基本的方向	年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせる共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、災害に備えた体制の強化やインフラ整備、公共交通の充実を通じて誰もが安心して暮らせるまちをつくる。
〈想定した事業・取組み〉	●特別支援教育の推進

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	医療機関で個別療育を実施することで主治医と有資格者が児や保護者に直接評価・支援を行うことができている。在園先も就学に向けてアドバイスが得られやすい。 ■主な支出内容:発達支援センターへの個別療育委託料
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	児童発達支援事業については国の支援対象外となっている内容まで市で手厚く支援することで、発達課題のある子どもを育てる家庭にとって安心して暮らせる共生社会づくりに寄与する。
今後の方向性	圏域の医療資源を活用しながら(花ノ木医療福祉センター)、南丹市としても圏域で一体的に療育支援の充実を図り、成長発達に合わせた支援の継続・将来の自立・社会参加を目指す。

事業名: 中心市街地活性化事業			
担当課:	商工課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	2,800
		うち交付金充当:	1,400
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	持続的に街を運営する「まちづくりのマネージメント」を実践することにより、まちなかでの起業促進、雇用を生み出し、街ににぎわいを創出する。
実施内容	起業支援、空き店舗紹介、他の団体等がまちなかで行う活性化イベントのサポートを行う。にぎわい創出のためのチャレンジショップを開設し、起業促進、来街者の増加をはかる。
コスト削減等の工夫	にぎわい創出事業の執行本部機能を民間へ委託し、民間の知恵と能力を活用している。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	商店街活性化まちづくりゼミ事業(南丹市商工会)

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
基本的方向	年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせる共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、災害に備えた体制の強化やインフラ整備、公共交通の充実を通じて誰もが安心して暮らせるまちをつくる。
〈想定した事業・取組み〉	●商店街の活性化支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	まちなかの地域団体等が主催するイベントと連携した軽トラ市を開催。 刊行誌の発行(2回) チャレンジショップ、日替わり店舗の実施 まちなかの商店や団体へのサポート(イベント補助、広報活動等)
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	商店街の活性化に資する取組を包括的に民間委託することで、地域内で自主的に仕組みづくりに取り組む意識を誘起している。 結果として生まれた様々な地元発の創意工夫が、住み続けたいまちづくりに繋がっていく。
今後の方向性	中心市街地の空き家・空き店舗等の情報の掘り起こしを行い、創業希望者とのマッチングや、にぎわい創出のための政策立案につなげる。

事業名: 集落活性化支援事業			
担当課: 地域振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	5,115	うち交付金充当: 2,557 (千円)

<1> 事業の概要

目的	少子高齢化が進み、機能維持が困難な集落を中心に、地域が抱える課題の解決を図るとともに本来有している地域の力を再生し、安心して住み続けられる地域づくりを維持するため、地域実情に応じた集落の維持・活性化対策をともに考え、助言や指導を行う「集落支援員」の配置と、「南丹市集落支援事業補助金制度」による財政支援を行う。
実施内容	限界集落・準限界集落を対象に集落の自立をめざす取組に対して「南丹市集落支援事業補助金」を交付する。
コスト削減等の工夫	集落支援員同士が情報の共有等を行うことにより、物品の貸し借りや広報など経費の削減ができるよう工夫した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	南丹市集落支援事業補助金やふるさとの誇りと絆支援補助金等を活用し、事業期間が終了した限界集落・準限界集落が、南丹市まちづくり活動交付金や京都府地域交響プロジェクト交付金等を活用して継続的に地域の活性化に取り組めるよう、集落支援員がサポートした。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
基本的方向	年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせる共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、災害に備えた体制の強化やインフラ整備、公共交通の充実を通じて誰もが安心して暮らせるまちをつくる。
〈想定した事業・取組み〉	●地域活動の活性化支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	南丹市集落支援事業補助金 ・地域再生計画策定事業 5件 449,000円 木住区、宍人区、和泉区、殿田区、中村区 ・再生事業 10件 4,666,000円 1年目:法京区、後野区、岩江戸区 2年目:長谷区、竹井区、向山区、林区、舟津区、下平屋区 3年目:上平屋区
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	限界集落・準限界集落での地域活動を活性化することで、「住み続けたい安心・安全な地域づくり」に資する事業。 地域団体と集落支援員が連携して、計画的・継続的に取り組むことで「地域活動を通じた顔の見える関係」が強固になっていく。
今後の方向性	限界集落・準限界集落に対して、継続した支援を行う。

事業名: 市民協働推進事業			
担当課:	地域振興課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	110 うち交付金充当: 55
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	地域の公共的な課題解決に取り組む市民団体が、自分たちの地域課題を自分たちで解決するために実施する事業に対し、支援を行う。
実施内容	市民団体が主体となって地域課題の解決をするための事業に対し、交付金を交付した。
コスト削減等の工夫	市民活動に対し交付金を交付することで、市民主体のまちづくりが推進された。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	南丹市まちづくり活動交付金、京都府地域交響プロジェクト交付金の相談窓口として、中間支援センターである「南丹市まちづくりデザインセンター」と連携した。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-2)市民とともに歩む地域づくり
基本的方向	多様化する地域課題の解決に向け、地域を牽引する人材の掘り起こしと育成にも取り組むとともに、市民協働の取り組みを通じて地域コミュニティの衰退を防ぐ。
〈想定した事業・取組み〉	●まちづくり活動交付金事業

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<p>本年度から、事業の継続性を重視した制度へ変更を行った。</p> <p>市民が自ら地域課題の解決をめざす事業を支援したことにより、市内で行われる市民活動の機会を増やすことができた。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、活動の制約等もある中、事業を実施された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南丹市まちづくり活動交付金 16件(市民団体:15件、学生チャレンジ枠:1件) ・市民活動団体交流会 12/22
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	<p>当該事業を通じて、地域課題の解決と市民活動の活性化がともに促進され、「市民とともに歩む地域づくり」に繋がっている。</p> <p>特に継続性の高い事業を採択することで、補助期間終了後のコミュニティ衰退を抑止する効果もあると考えられる。</p>
今後の方向性	<p>南丹市まちづくり活動交付金は、3年間という期限を設け、活動初期段階として財政支援を行うとともに、団体が活動を継続して取り組むことができるよう、南丹市まちづくりデザインセンター等とも連携し、各種相談に対応する。</p>

事業名: 小学校跡施設利活用推進事業			
担当課: 総務課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	2,000	うち交付金充当: 1,000 (千円)

<1> 事業の概要

目的	小学校は地域にとって特にシンボリックなもので財産でもあることから、廃校となった校舎等の有効活用は、地域全体の価値向上につながる重要な取り組みである。 本事業は、地域団体が主体となり実施する南丹市内の小学校跡施設(4施設)を拠点とした公益性の高いまちづくり活動を総合的に支援することを目的とする。
実施内容	小学校跡施設の所在する地域内で組織された地域団体が主体となり施設を拠点として実施する小学校跡施設の利活用を推進する事業に対して、交付対象経費の10分の10以内の額で1地域団体50万円を限度として支援する。
コスト削減等の工夫	各跡施設は、地理的条件や施設スペックなどに大きな相違があることから費用対効果が高まるように事業主体の地域団体とは交付申請前の段階で市と実施事業の相談できる関係を築いている。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	小学校跡施設の利活用を進めることができるよう、市が施設自体の適正な維持管理を実施している。また、市が設置する「南丹市立小学校跡施設利活用推進本部」「南丹市協働担当職員」とも連携し事業実施している。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-2)市民とともに歩む地域づくり
基本的方向	多様化する地域課題の解決に向け、地域を牽引する人材の掘り起こしと育成にも取り組むとともに、市民協働の取り組みを通じて地域コミュニティの衰退を防ぐ。
〈想定した事業・取り組み〉	●まちづくり活動交付金事業

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	元の学区を中心とした地域コミュニティ活動が小学校跡施設を拠点して活発に実施されることにより、新たな地域アイデンティティやシビックプライドの醸成につながっている。 また、空き教室にドローン関連企業の誘致が地域からの提案で実現するなど、民間と地域の連携による活性化が今後も期待できる。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	当該事業を通じて、地域課題の解決と市民活動の活性化がともに促進され、「市民とともに歩む地域づくり」に繋がっている。 民間誘致に成功する事例も出ており、地域コミュニティ衰退に歯止めがかかることも期待できる。
今後の方向性	交付金制度創設の初年度実績であるが、実績効果を検証し、制度の点検・見直しを行っていく。 一方、4施設の維持管理経費が年間16,000千円程度必要なことから、地域の実情や地域団体の意向も踏まえながら、民間移譲や民間活力導入の検討を進める。

事業名: 小学校跡施設管理費			
担当課: 地域振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	25,425	うち交付金充当: 12,712 (千円)

<1> 事業の概要

目的	廃校となった小学校跡施設を活用し、地域の子どもから高齢者までが集い、住み慣れた地域で生き生きと健康に暮らしていける仕組みの形成とともに、地域の資源を活かし地域内外の交流を通じ、地域社会の活性化を図ることを目的として、南丹市地域活性化センターを設置し、地域の拠点施設とする。
実施内容	地元組織を指定管理者とし、施設の管理・運営を委託した。
コスト削減等の工夫	地域振興会などの地元組織が指定管理者となり、地域の拠点施設として活用したことにより、地域住民のニーズに合った施設運営ができた。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	南丹市小学校跡施設本部会議において、各地域活性化センターで実施する事業などについて、情報共有を図っている。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-3)次代に繋ぐ連携の地域づくり
基本的方向	既存施設や地域資源の有効活用で負担を減らし、人口減少に対応しながら市民満足度を向上させる取り組みを持続させるとともに、近隣自治体や府と連携し、多様化する住民ニーズや広域化する行政課題に対応する。
〈想定した事業・取り組み〉	●廃校舎を活用した地域の拠点づくり

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	地域活性化センター 7施設 (川辺地域活性化センター・西本梅地域活性化センター・新庄地域活性化センター・吉富地域活性化センター・五ヶ荘地域活性化センター・平屋地域活性化センター・大野地域活性化センター) 地元組織が施設の管理・運営することにより、地域の拠点として住民と連携した事業や活動を実施することができた。 なお、本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、計画した事業の一部を中止することもあった。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	地域のシンボリック的存在である小学校の跡地を地域活性化センターとして有効活用できている。 また、その活用を地域に任せることで、「4-2 市民ともに歩む地域づくり」にも繋がっている。
今後の方向性	地域の拠点施設として、指定管理者制度による適正な施設の維持管理と地域の特長を生かした施設運営を進める。

事業名: 森の京都推進事業			
担当課: 観光交流室			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	8,383	うち交付金充当: 3,021
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	関係自治体、各分野の事業者や関係団体等で設立した森の京都DMO(一般社団法人 森の京都地域振興社)を核として、これまでの「森の京都」の取組や平成28年度の森の京都のターゲットイヤーとして取り組んだ「森の京都博」の成果を圏域内で共有・浸透させ、各地域で芽生えている地域づくりの取組や活動などを育み、地域などの実践者が主体となった取組が持続可能なものとなるように環境を整えるとともに、地域資源を生かした商品造成・販売、都市農村交流、特産品のブランド化、人材育成、プロモーション、情報発信などを行い、「森の京都」をテーマとした観光まちづくりを推進する。
実施内容	観光を通じた地域活性化を目指し、京都府と亀岡市、南丹市、京丹波町、福知山市、綾部市で設立された森の京都DMOへ負担金を支出する。市や地域関係団体などと連携し、広域連携を生かした事業を展開する。
コスト削減等の工夫	事業収益増額のための支援
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	観光協会事業、観光宣伝事業、美山観光まちづくり協会事業

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-3)次代に繋ぐ連携の地域づくり
基本的方向	既存施設や地域資源の有効活用で負担を減らし、人口減少に対応しながら市民満足度を向上させる取り組みを持続させるとともに、近隣自治体や府と連携し、多様化する住民ニーズや広域化する行政課題に対応する。
<想定した事業・取り組み>	●森の京都ブランドPR

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング(アンケート調査、定点観測、各市町でのマーケティング研究会の実施)…観光客ニーズの通年把握、コロナ禍における顧客の動向把握 ・認知度向上に向けた取り組み強化…WEB,SNSなどによる魅力的な情報発信、オンラインバスツアー、QRトレインによる認知度アップ ・食をテーマとしたツーリズムブランド化推進…伝統食、行事食に関する情報発信、森の京都ジビエフェアによる誘客促進、商品開発 ・アクセス強化、二次交通の充実による誘客促進…多言語対応の観光・交通案内アプリによる情報発信 ・インバウンド推進事業(インバウンド向け商品開発、受け入れ体制整備)…地域事業者と連携し商品開発、英語ガイドの育成、サイクルツーリズム受け入れ体制の整備 ・農山村における教育旅行の推進…コロナ期における教育旅行プランの開発と旅行会社への提案、SAVOR JAPAN推進協議会との連携 ・着地型旅行商品の開発…御城印を切り口とした観光資源の磨き上げと関係者ネットワークの形成、大河ドラマによる誘客促進。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	上記実施結果として記載している成果は、市単独規模ではなし得ないものが多く、京都府や府内自治体との連携によって、「次代に繋ぐ連携の地域づくり」としての継続性が担保されている。
今後の方向性	観光による地域活性化と合わせ観光を切り口とした定住促進を図る

事業名: 国定公園推進事業			
担当課: 環境課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	9,642	うち交付金充当: 4,821 (千円)

<1> 事業の概要

目的	自然と文化が融合した里地里山文化の発信拠点として、国定公園の優れた風景地の保護とその適正な利用を通じて地域貢献に寄与することを目的とする。
実施内容	京都丹波高原国定公園ビジターセンターの運営及び維持管理について、京都府、南丹市、(一社)美山観光まちづくり協会の3者で構成するビジターセンター運営協議会により行うこととしており、その経費を負担する。
コスト削減等の工夫	構成3団体による担当者会議を開催し協議している。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	国定公園エリア内における各種イベントや各市町における観光案内等と連携している。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-3)次代に繋ぐ連携の地域づくり
基本的方向	既存施設や地域資源の有効活用で負担を減らし、人口減少に対応しながら市民満足度を向上させる取り組みを持続させるとともに、近隣自治体や府と連携し、多様化する住民ニーズや広域化する行政課題に対応する。
〈想定した事業・取り組み〉	●広域連携した観光振興

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	①来館者数:79,053人 ②会議室の利用:セミナールーム 27件 239名 ミーティングルーム 25件 144名 ③イベント等:企画展 2回 体験講座等 3回 ④関連売上げ:1,365,212円
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	京都市や綾部市、京丹波町にも及び約69,000ヘクタールの広大な国定公園エリアの窓口となるビジターセンターの運営は、京都府や美山DMOとの連携による地域づくり事業であることから、基本目標4の達成に向けて継続していく。
今後の方向性	研究者や地域との連携をさらに促進し、魅力ある事業の展開を図り、更なる利用者増に繋げていく。

事業名: アーティスト・イン・レジデンス事業			
担当課:	地域振興課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	500
		うち交付金充当:	250
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	市民と芸術家が交流する機会を創出することにより、地域が持つ可能性やその魅力をアートを通じ発信することで、交流人口の拡大、地域の活性化につなげる。
実施内容	京都:Re-Search実行委員会に参画し、負担金を支出した。 府がアーティストの選考やマッチング、市は地元の受け入れ調整を行った。
コスト削減等の工夫	若手アーティストが地域に滞在し、地域の魅力を発信することで地域の活性化につながった。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-3)次代に繋ぐ連携の地域づくり
基本的方向	既存施設や地域資源の有効活用で負担を減らし、人口減少に対応しながら市民満足度を向上させる取り組みを持続させるとともに、近隣自治体や府と連携し、多様化する住民ニーズや広域化する行政課題に対応する。
〈想定した事業・取組み〉	●京都府との連携

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	「京都:Re-Search 2020 in 南丹」 若手アーティストら5名が、南丹市内に滞在し、地域の風土や歴史等を調査し、そこでの発見を活かしたプロジェクトや作品プランの構想を立て、次年度の「大京都」事業の実現をめざした。 9/19～9/20 「京都:Re-Search 2020 in 南丹」報告会・活動報告展 (南丹市八木市民センターギャラリー)
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	市単独では難しいアーティストの選考・マッチングについて京都府が担い、地元への受け入れ調整を市が担う、という府市連携によって成立する「連携の地域づくり」に資する事業である。
今後の方向性	昨年度の成果を活かし、若手アーティストが、2ヶ月間南丹市に滞在(居住)し、地域住民と協働しながら、地域の新しいアワードドキュメント作品を制作・発表する「大京都2021in南丹」を開催する。